

鷹は飢えても 穂を摘まず

鷹は腹を空かせても、人が丹精を込めて作った稲穂を決して口にしない。道を外さず、己の道をまっすぐに歩み続ける。芸術家としての人生は、決して楽な道ではなかった。それでも誠実に太鼓と向き合った三芳の鷹。彼を支えた仲間、そして太鼓に対する想いに迫る。

三芳に棲む鷹-TAKA-

2015年、世界和太鼓打ち比ベコンテスト優勝・文部科学大臣賞受賞。2017年にはチーム「暁」としても世界一となり、高校や大学で書道の講師も務める多才な芸術家が三芳町で暮らしています。

太鼓ってかっこ悪い

「7歳のときに母が太鼓をやりたいと言い出して、僕もいや

いや付き合わされていました」と語るのは、和太鼓奏者・書道家鷹-TAKA-さん。東京都中野区で育ち、地元の太鼓チームに参加したが、和文化に触れるきっかけでした。

「人前で披露するのが恥ずかしくて、なんてかっこ悪いものをやらされているんだろう」。「伝統」というものを理解できなかった幼き日の鷹-TAKA-さんは、後の生活で考えを改めます。

野球と書道と太鼓

「中学の野球部で声を出すことの大切さを学び、高校の書道部で自分との闘いの面白さに触れました」。声を出して自分を表現し、自分との闘いで技術を追求する――。他の分野から太鼓に通ずる極意を感じた鷹-TAKA-さんは、太鼓への熱意を高めていきました。

芸術系の大学で書道を学び、同時に太鼓の腕も磨き続けた鷹-TAKA-さん。将来は自分でチームを引っ張り、歴史を築きたいという想いが強くなり、芸術家として生きていくことを決意しました。

暁-AKATSUKI-

鷹-TAKA-さんがリーダーを務める和太鼓チーム「暁」は2013年に結成。弟の隼也さんや和太鼓サークルの後輩たちが鷹-TAKA-さんと同じ舞台上で演奏したいと希望しました。「僕はプロとして舞台上に立ちたいので、メンバーに求めるものも多くなってしまっているメンバーがいました。今残っているメンバー

【写真】①鷹-TAKA-さん。和太鼓だけではなく三味線など和楽器全般を巧みに操ります。舞台上の熱意は凄まじいものが。②大塚奈生さん③塚本隼也さん④近藤玲未さんの3人は暁のメンバー。鷹-TAKA-さんを含め4人の織り成す和楽器の旋律は観客を魅了します。

は本当に太鼓が好きで、太鼓を中心に生活できる人だけ」と鷹-TAKA-さんは話します。太鼓を通じて自分を表現する鷹-TAKA-さんが作りたい舞台を一緒に作ってくれる仲間「暁」のメンバー。彼らを引っ張っていくという責任を自らに課し、今なお吸収と進化を続ける鷹-TAKA-さん。三芳町を棲家とする一羽の鷹は、自らを磨き続けるために、決して己の道を踏み外さず、今日も全国を飛び回ります。

我ら“暁”。
打ち、奏で、魅せる者。

2017年文部科学大臣賞受賞。
全員が大太鼓コンテストで日本一、二位を獲得する実力者集団――。それが“暁”。



2



3



4

1